

ワタナベイツトクサイ 渡邊一徳齋 金澤軍談師の鼻祖といはれる。藩末の人。日蓮宗信者で、加藤清正の肖像を造立し、之を淨池院清正大神儀と稱して、卯辰全性寺の境内に祭つた。

ワタナベイブン 渡邊葵文 金澤の俳人。名は太餘文。葵文と號し、閑亭を繼席し、蕉風俳諧に於ける最後の活動をなした。大正三年五月廿八日歿。享年七十四。

ワタナベイヘエ 渡邊伊兵衛 加賀藩の御扶持人大工であつた。萬治元年幕府の藩に命じて江戸城の天守臺を築造せしめた時、伊兵衛その工を督したが、成るに及んで幕府の御大工頭鈴木修理の査檢を求めた所、修理は大に伊兵衛の技の優秀なるを賞した。

ワタナベイン 渡邊眞 通稱喜左衛門。初諱直政、後眞と改む。覺右衛門の子左兵衛政忠の次子で、配分知百五十石を受け、加増を合はせて五百五十石に至り、加州御郡奉行・御馬廻御使役等に歴任し、正徳四年四月朔日歿した。その子喜左衛門清を經、小膳幼少で三の一を襲いだが、安永元年正月廿九日早世斷絶した。

ワタナベカクエモン 渡邊覺右衛門 慶長十九年前田利常に仕へ、三百石を領し、寛永十年歿した。子孫相繼いだが、その嫡統は七代太郎作安永二年三の一中早世して斷絶した。

ワタナベカツシツ 渡邊勝禪 通稱惣左衛門・道禪。享保三年御歩となり、同横目を經、延享二年新知七十石を受けて坊主頭に任じ、明和二年歿。子孫藩に世襲する。

ワタナベケンゴロウ 渡邊源五郎 初め政五郎。御算用者より出で、寛政十二年父聰の

遺知百十石を襲ぎ、年寄中御用となり、組外に列し、文化三年五十石を加へ、諸職を經て文政十年四月晦日歿した。

ワタナベコウアンモノガタリ 渡邊幸庵物語 一册。寶永中加賀藩の定番御歩杉本三丞義隣が、江戸在役中前田綱紀の命により、渡邊幸庵と稱する百廿八歳の老翁を尋ねて聞き得た咄を記したものである。

ワタナベサエモン 渡邊左衛門 越前府中に於いて前田利家に仕へ、千二百石を領した。子孫相繼いだが、左衛門の子吉左衛門の時から、母の氏によつて黒坂と改めた。

ワタナベサダノブ 渡邊眞宣 通稱健右衛門。寶永二年御歩となり、御歩横目を經、享保十六年前田宗辰附御歩小頭として新知百石を受け、延享二年淨珠院附御用人に任じて組外に列し、寛延元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ワタナベシチザエモン 渡部七左衛門 初め前田利常に仕へて百三十石を領し、天和二年歿。七左衛門はもと備前岡山の日置氏の出であり、加賀藩の今枝氏がその親戚であるから流浪して來たものであるが、小祿を恥ぢて渡部氏を稱したといふ。子孫藩に世襲する。

ワタナベシヨウ 渡邊章 通稱三次郎・右膳・久兵衛。安永五年養父勤兵衛邊の遺知百五十石を襲ぎ、御馬廻に班し、寛政五年前田齊廣の御抱守から諸職に轉じ、文政五年百石を加へ、七年八月六日歿した。

ワタナベシヨヘエ 渡邊所兵衛 享保元年御馬廻として組外に列し、二十人扶持を受け、元文四年七十歳を以て歿。子孫五代喜平寛政

八年出奔するに及んで斷絶した。

ワタナベシンジユウロウ 渡邊新十郎 初め前田利家に仕へて三百石を領した。子孫藩に世襲する。

ワタナベソウ 渡邊聰 通稱半左衛門・豊太。初御算用者として四十俵を受け、後養父政大夫の遺知八十石を襲ぎ、御用所執筆に任じ、天明二年同小頭並となり三十石を加へ、五年組外に列し、書寫役を勤め、七年御近習勤仕に轉じ、寛政十一年十月廿七日六十二歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ワタナベチブ 渡邊治部 天正十六年前田利家に仕へて千二百石を領し、慶長十六年二百石を受けて隠居の後、元和の役に足輕頭として従軍し、同六年歿。子孫世々藩に仕へる。

ワタナベツグズミ 渡邊次純 通稱權五郎。元祿十四年養父齋宮の遺知三百石を襲ぎ、享保六年齋宮の兄にして次純の實父たる彌市右衛門の遺知二百三十石を併せ、大小將組に班し、同二十年三十七歳を以て歿した。

ワタナベトモカツ 渡部共一 通稱十兵衛。七左衛門から七代に當る。文政三年外作事奉行、天保元年前田慶寧御次番等に任ぜられ、祿百三十石から百八十石に進んだ。明治元年十月八日七十五歳を以て歿。共一は村東旭に學んで書を描き、號を適齋というた。

ワタナベトモユキ 渡邊知行 犬聖寺の人。通稱卯三郎、號は北渚。初め金澤の黒川良安及び越前丸岡の橋本某に醫を學び、年十九にして大坂の緒方洪庵の塾に入り、居ること三年、次いで長崎に遊び、又緒方氏の塾頭となり、後家に歸りて安政四年父の後を受け藩醫に任ぜられ、慶應二年復長崎の關醫ホルドウ

キんに就きて研究し、明治元年大聖寺藩の洋學教師となり、四年金澤に往きて關醫スロイスに學び、廢藩以後家に在つて刀圭を業とし、十數年にして歿した。

ワタナベノブヒサ 渡邊信久 通稱清十郎・半兵衛。寛文十年養父半兵衛の遺知の中二百石を襲ぎ、御作事横目・會所横目・公事場横目・仙後院附を經、正徳三年同御附物頭並に至つて百石を加へ、享保元年御先弓頭となり、享保十七年二月致仕して久信と號し、同年十二月二十日七十六歳を以て歿した。

ワタナベハチエモン 渡邊八右衛門 初名助次郎。治部の子。慶長十六年父致仕の後千二百石を襲ぎ、大坂再役に岡山にて首一を得、元和六年父の隠居料二百石を併せ、寛永四年足輕頭に任じ、十六年大聖寺の分封に従ひ、千六百石に進み、明暦二年その地で歿。その子八右衛門千二百石を襲ぎ、次子所左衛門四百石を配知せられたが、承應二年共に金澤に還された。

ワタナベハンベエ 渡邊半兵衛 初め前田利常に仕へて二百石を受け、後百石を増し、寛文十年歿。子孫藩に世襲する。

ワタナベヒコザエモン 渡邊彦左衛門 初め朝倉義景・織田信長に屬し、天正十一年七月前田利家に仕へて百石を受け、後能登所口代官に任じ、慶長六年八月歿。子彦左衛門・孫伊織を經て、伊織の弟勤兵衛嗣ぎ、改めて三輪氏を稱した。

ワタナベブザエモン 渡邊武左衛門 初め久太夫。元文四年御歩並御馬廻として五十俵を領し、後二十人扶持を加へて御厩方となり、延享四年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。